

# 輸出拡大に向けた安心・安全な茶産地体制づくり

所 属 名：曾於畑地かんがい農業推進センター農業普及課  
発表者名：折田 高晃

## <活動事例の要旨>

志布志市の茶業は広大な畑地を活かし、畑かんを活用した大規模経営が営まれている。一方、志布志茶の生産では天敵の生態を考慮した減農薬に対する意識が高く、「志布志有明茶 IPM 研究会」、「志布志有機茶研究会」において技術向上の取り組みを行っている。これらの研究会を対象とし、近年侵入したチャトゲコナジラミに対する天敵活用の密度低下対策の実施、チャノホソガに対する散水防除の効果確認、会員による発生予察の実施と ICT 活用による予察情報の共有を行い、輸出拡大に向けた生産技術の向上へつながった。

## 1 計画された活動の課題・目標と策定過程

### (1) 課題・目標と設定理由、及び活動の内容と方法

近年、緑茶消費の減少傾向に伴う価格低迷により、茶の販売環境は厳しさを増している。このような中、新たな需要を求めて、お茶の海外輸出の動きが高まっており、志布志市においても輸出の取り組みが進んでいる。

茶の海外展開を進めるには、相手国の残留農薬基準をクリアする必要があり、国内向けと異なる病害虫防除技術を必要とする。

これまで、平成21年に設立した「志布志有明茶 IPM 研究会」において、有機リン系の殺虫剤の使用自粛や、畑かん水利用によるクワシロカイガラムシ対策の実証等を実施してきたことから、課題の解決に向けてこれらの取り組みを更に進めることとし、普及計画に位置づけた。

### 地域の現状と課題

**現状**  
有機茶園の拡大必要  
(有機JAS取得面積)  
38ha(H29)→  
178ha(H38)

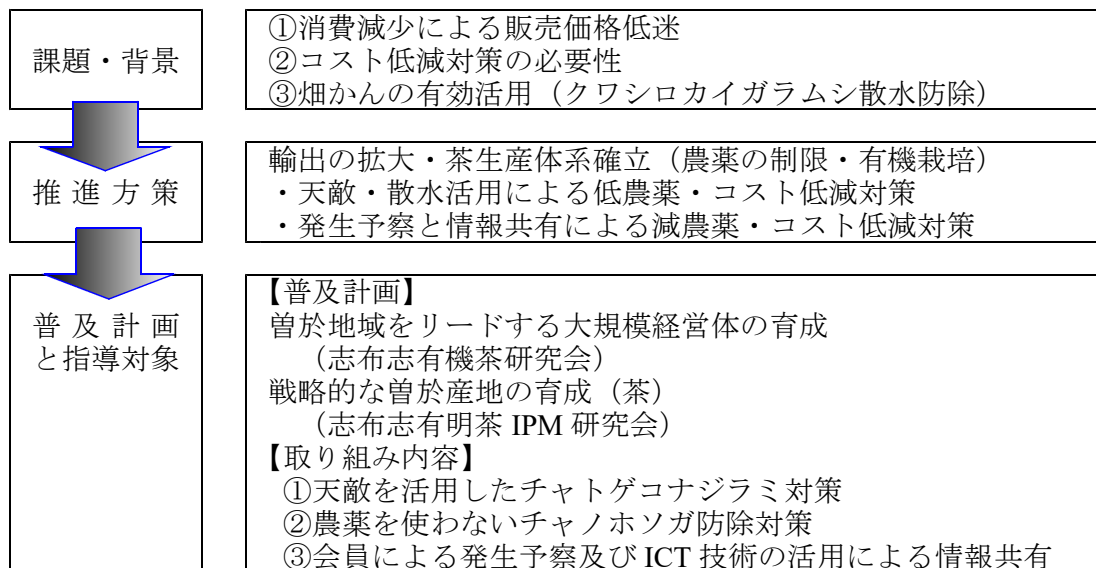


チャトゲコナジラミ    チャノホソガ

**課題**  
化学農薬に頼らず、害虫の被害を抑えながら、海外輸出向け茶を安定生産する技術(IPM技術)の確立が必要。

**解決方策**  
①天敵の活用  
②新たな散水防除技術  
③適正予察と情報共有

### (2) 計画の策定過程



## 2 普及活動の内容

### (1) 活動の経過

### ①チャトゲコナジラミ対策

志布志市では平成28年に侵入が確認された。特に有機栽培においては有効な防除法が少なく、有望天敵の放飼，定着による発生密度抑制に取り組んだ。

### ②チャノホソガ散水防除対策

農薬を用いないホソガ防除対策として散水防除の実証を行った。

### ③ IPM 研究会員による発生予察と ICT 活用による情報共有

志布志市内20地点で、IPM 研究会会員自らフェロモントラップによる発生予察に取り組み，最も身近な ICT 技術として LINE を活用した情報共有を行った。

## (2) 指導・支援の体制

チャトゲコナジラミ対策（天敵の放飼）では，曾於南部茶業部会（関係機関）と連携し，事例調査を行いながら実施した。チャノホソガ散水防除，発生予察の取り組みは研究会員が主体的に取り組み，畑かんセンターでデータをとりまとめの上，必要な情報を関係機関と共有しながら幅広く農家へ情報提供を行った。

## 3 普及活動の成果

### (1) 課題及び目標の達成状況とその要因

#### ①チャトゲコナジラミ対策

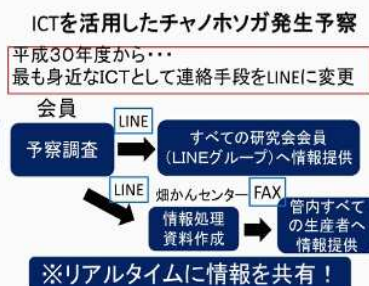
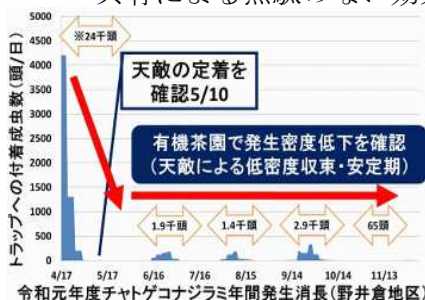
天敵（シルベストリコバチ）の放飼を行い，その定着が確認できた（H29～30）。有機栽培茶園において，天敵の定着による発生密度の低下を確認した（R1）

#### ②チャノホソガ散水防除対策

散水防除の実証を行った結果，防除効果（防除価5割程度）を確認した（H30）。

#### ③ IPM 研究会員による発生予察と ICT 活用による情報共有（H30～R1）

IPM 研究会会員自らチャノホソガ発生予察に取り組み，ICT を活用した情報の共有による無駄のない効果的な防除につながった。



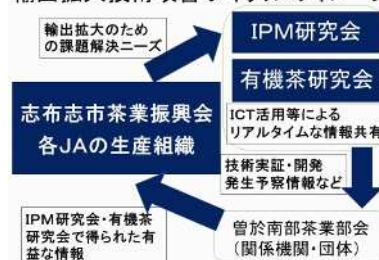
### (2) 活動に対する生産者・農家の評価

チャトゲコナジラミ対策は近年最大の懸案であったが，密度が低下したことにより一定の評価を得た。

チャノホソガ対策について，散水防除の効果が明らかとなり，発生予察情報の共有により無駄のない防除の体制が構築できた。

以上により，有機栽培技術の向上へつながった。

### 輸出拡大技術改善サイクルのイメージ



### (3) 地域農業振興への貢献

各研究会の成果は，関係機関を通して広く周知し，活用された。

## 4 今後の普及活動に向けて

### (1) 今後の課題

化学農薬に頼らない天敵に優しい防除体系の確立

### (2) 今後の活用に向けて

今後も，「志布志有明茶 IPM 研究会」，「志布志有機茶研究会」の活動を支援しながら，輸出の拡大に取り組むたい。